

自分と子どものかかわりから自己理解を図る 保育授業の開発 (第5報)

— 中学校選択教科「技術・家庭 (家庭分野)」における Flour Baby Project の実践と検討 —

佐藤 園 ・ 三浦 聖子* ・ 原田 省吾**

本研究の目的は、全ての生徒が乳幼児との関わりを通して、親になるということを考え、自己理解を図る保育授業の開発にある。本報は、中学校家庭科でこの目的を達成するための第二段階として、中学校選択教科「技術・家庭 (家庭分野)」を履修している生徒16名 (第3学年女子16名) に Flour Baby Project (以下、FBPと称す) を実施し、その有効性を検討した。生徒は、① Flour Baby に対する愛着を持って土・日を含むFBPを行い、②世話に伴う様々な大変さから、③家族の協力の必要性を感じると共に、④「養育態度の反省」から、現在の自分には、子育てに対する責任と知識・経済力が欠如し、自立できていないために、親になることはできないという⑤「現在の自分に関する認識」を形成していた。しかし、最終授業で行ったディスカッション終了後には、生徒は、「将来は自分の子どもがほしい」、「子育ては大変だがそれを通して自分も成長できるのではないか」という⑥「将来の自分に関する認識」に結びつく意見を記述していた。

Keywords : 中学校選択教科「技術・家庭 (家庭分野)」, 授業開発, 保育学習,
フラワーベイビープロジェクト

1 問題の所在—研究の目的と方法—

1. 研究の目的

本研究の目的は、家庭科の保育学習において、全ての生徒が乳幼児との関わりを経験する中で自分が親になるということを考え、自己理解を図る授業開発にある。本研究では、その教材として、米国カンザス州 Overland Trail Middle School (以下、OTMSと称す) で、生徒が連続した5日間 Flour Baby (以下、FBと称す) を世話し、1日の終了時には答えるべき問いを含んだ Baby Journal (以下、BJと称す) を記述し、毎日の家庭科の授業で、その経験を通して問題となったことをディスカッションにより検討することを骨子とする Flour Baby

Project (以下、FBPと称す) とそれをわが国の大学生に追試した先行研究^{1) 2)}に着目した。

それらの研究結果を踏まえ、第1報³⁾では、中学校における授業開発の第一段階として、「総合的な学習の時間」(以下、「総合」と称す)においてFBPを実践し、その意義と教材としての有効性を検討した。

その結果、生徒は、「FBに対する愛着」、「世話の大変さ」、「現在の自分には子育てをすることは無理である」という「現在の自分」に対する認識、「将来は子どもを育てたい」という「将来の自分」に関する考えの4点を共通して獲得していた。

しかし、中学校「総合」でのFBPと同時期に高

岡山大学教育学部家庭講座 700-8530 岡山市津島中3-1-1

Development of Early Childhood Education and Care Class That Enables Self-understanding from Relations between Child and I (5) : Practice and Examination of Flour Baby Project in Junior High School Selection Subject "Technology and Home Economics (Home Economics Field)"

Sono SATO, Seiko MIURA* and Shogo HARADA**

Department of Home Economics Education, Faculty of Education, Okayama University, 3-1-1 Tsushima-naka, Okayama 700-8530

*Graduate School of Education (Master's Course), Okayama University

**Junior High School Attached to the Faculty of Education, Okayama University, 2-13-80, Higashiyama, Okayama, 703-8281

等学校の特別編成授業（以下、「特編」と称す）で行ったFBPでは、高校生は、中学生が獲得した4つの認識に加え、「家族や他の人々の協力の必要性」「子育てに対する責任」「子どもが育つ環境としての家族」と「将来の自分」に対する認識に繋がる「子どもを持つことの楽しさ」を獲得していた。⁴⁾

このFBPによる中学生と高校生が獲得した認識の差は、生徒の発達段階というよりも、FBPの実施条件が影響していると考えられた。具体的には、高校生は、連続5日間学校と家庭でFBを世話し、プロジェクトのまとめとしてディスカッションを行っていたのに対し、中学生は非連続の2日間で設定された3時間の授業時間内でFBの世話を行ったに過ぎなかった。

本報では、前述した目的を達成するための第二段階として、中学校家庭科でのFBPの実施の可能性と有効性およびFBPの実施条件を検討するために、中学校選択教科「技術・家庭（家庭分野）」（以下、「選択家庭」と称す）にFBPを位置づけ、以下の手順を踏み実践を行った。

2. 研究の方法

(1)FBPの実践内容の確定

- ①FB養育ルールの作成
- ②FBを養育する経験とそれを通して生徒に考えさせるべきBJの問いの設定

(2)FBPの実施

対象者：岡山大学教育学部附属中学校で選択教科「技術・家庭（家庭分野）」を履修している第3学年の生徒16名（女子16名）

実践者：同校家庭科担当教諭 原田 省吾

実施期間：2004年5月7日（金）第3・4限
5月14日（金）第3・4限
5月15日（土）・16日（日）
5月21日（金）第3・4限
5月28日（金）第3・4限

(3)実践結果の検討

II 選択教科「技術・家庭（家庭分野）」におけるFBPの位置付けとねらい

1. 実践校における選択教科の概要

岡山大学教育学部附属中学校では、選択教科として複数の講座を設け、「選択の時間」と称して1年次から開講している。

「選択の時間」は、1年次では、10講座開講されるが、生徒はそこから1講座を選択し、12月頃から週1時間、計7時間履修する。2年次では、年間を通して週1回1時間が「選択の時間」に充てられるが、生徒は、前期・後期毎に2講座ずつを選択

し、年間で4種類の講座を学ぶ。3年次は、履修方法は2年次と同一であるが、履修時間が週1回2時間となる。

「選択の時間」では、「自分だけの時間割」を自分で作りあげる力を磨こうと「選んだ学習」を充実したものにしていこうという2つの目標が掲げられている。この目標に基づき、人から指定された学習をがんばるだけではなく、自分自身で「今、何を学ぶべきか」を考え、判断し、実行する力を伸ばすこととして「学びを選択する力」を鍛えることを目指している。さらに、「学習を選ぶ」だけではなく、「選んだ時間を最大限に意味のある時間にしていくこと」もねらいとなっている。

2. 「選択の時間」におけるFBPの位置づけ

今回の実践では、第3学年の「選択の時間」の一つの講座として「講座Ⅱ New Flour Baby Project」を開講し、FBPを位置づけた。

講座Ⅱは、選択教科「技術・家庭（家庭分野）」の保育学習の発展型として行われる学習であり、以下の5つを目標としている。

- ①FBや幼児と適切に関わることができる。
- ②様々な情報源を用い、自分の興味・関心を持った子どもの成長・発達の課題について調べることができる。
- ③調べた結果を、他の人にわかりやすいようにまとめ、発表することができる。
- ④他の人の発表に対して、自分なりの意見を持ち、発表できる。
- ⑤自分の成長と家族や周囲の人々との関係について、自分なりの考えを持つことができる。

これらの目標を達成するために、「講座Ⅱ New Flour Baby Project」は、次の5項目を全20時間で行うように計画され、FBPはその導入として位置づけられた。

1. New Flour Baby Project（8時間）

- FBの誕生－FBの親になろう
- FBと共に活動してみよう

2. 幼稚園で子どもたちと共に過ごしてみよう（2時間）

- 幼稚園訪問

3. 子どもはどのように成長・発達するのだろうか（課題選択）（6時間）

- 「からだの発達」「こころの発達」「遊びと発達」について班毎に調べる
- 発表

4. （なぜ、子どもの虐待は起こるのだろうか）（2時間）

5. まとめ（2時間）

III FBPの実践内容

1. FB養育ルールを設定

「選択家庭」でのFBPの活動内容から、前回の「総合」で用いたFB養育ルールに基づき、FB養育ルールを表1のように設定した。

表1 FB養育ルール

ベイビーの“親”になるにあたり、以下のルールを必ず守ってください。
FB養育ルール
1. あなたがベイビーの世話をすること。友だちにベイビーを渡して世話をさせたり、育児放棄をしてはいけない。 2. 誰のベイビーに対しても殴ったりひどい目にあわせるなどの虐待をしてはいけない。 3. 土日はベイビーと共に家に帰り世話をすること。世話をしたという証明のために、おうちの人に署名をもらうこと。 4. 自分ではどうしても世話をできないときは、必ずベビーシッターに子守を頼むこと。 5. ベイビージャーナルを必ずつけること。ジャーナルには、不満も含めて、正直な気持ちを書くこと。
このルールを守るという約束として、自分の名前をサインしてください
サイン：

2. FB養育経験を通して生徒に考えさせるべきBJの問いの設定

BJの問いは、前回の「総合」と高等学校「特編」で用いた問いから、今回のFBPの活動内容を考慮し、表2に示す22項目の問いを設定した。

表2 BJ質問項目

授業	1 ①あなたのベイビーは男の子ですか？女の子ですか？ ②あなたのベイビーの性は、あなたが望んだものでしたか？ ③なぜ、あなたは、ベイビーにその性を望んだのですか？
----	---

二回目	2 ①あなたはベイビーにどんな名前を付けましたか？ ②どうしてその名前を付けたのですか？ 3 これから世話をしていく中で、どのような問題があなたのベイビーに起こると思いますか？ 4 あなたのベイビーに“親”として責任を持った今、あなたはどんなことを感じたり、思ったりしていますか？
土曜日	1 あなたは、今日、どんなふうに過ごしましたか？ベイビーと一緒にいったところ、ベイビーと一緒にいて、難しかったことや面倒に思ったこと、嬉しかったことや楽しかったことなどを書いてください。 2 どのような時に、人があなたとあなたのベイビーをじろじろと見ていると思いますか？ 3 今日子守を頼んだ人は答えてください ①なぜ子守を頼んだのですか？ ②どのくらいの時間預けましたか ③だれに子守を頼みましたか？ 4 なぜ、人が親になるときに、自分の家族は重要なのでしょうか？
日曜日	1 あなたは、今日、どんなふうに過ごしましたか？ベイビーと一緒にいったところ、ベイビーと一緒にいて、難しかったことや面倒に思ったこと、嬉しかったことや楽しかったことなどを書いてください。 2 ①どんな時に、あなたは赤ちゃんを連れているのが難しいと感じましたか？ ②それはなぜですか？（難しいと感じなかった人は、なぜ感じなかったかについて書いてください） 3 今日子守を頼んだ人は答えてください ①なぜ子守を頼んだのですか？ ②どのくらいの時間預けましたか ③だれに子守を頼みましたか？
授業三回目	1 ①ベイビーと活動して、難しかったことや大変だったことはどんなことですか？ ②なぜ、そう思ったのですか？ 2 今日、ベイビーと一緒にいて初めて経験したことはどんなことでしたか？ 3 学校内を、ベイビーと共に活動してみて、どんなことを感じましたか？
授業四回目	1 ①もし、あなたが本当に10代で親になったとすると、どのようなことをあきらめたり、変えたりしなければならないと思いますか？ ②あなたはそれができますか？ 2 赤ちゃんのために、どのようなあなたの人生の目標を変えなければならないと思いますか？ 3 あなたは、これまで知らなかったことで、どのような責任について学びましたか？ 4 ①あなたはフラワーベイビーと別れる準備ができていますか？ ②それは、なぜですか？ 5 フラワーベイビーの親になって、あなたが学んだことは何ですか？ 6 ①あなたは親になる準備ができていますか？ ②それはなぜですか？ 7 ①あなたは、ベイビーの“親”を真剣に取り組めましたか？ ②それはなぜですか？

3. FBPの実施内容

今回のFBPでは、生徒が土・日曜日にFBを自宅に連れて帰って世話をするため、プロジェクトに際して、教師が、生徒を通して保護者に表3の手紙を渡し、プロジェクトの趣旨説明を行った。

表3 受講者及び保護者に宛てた手紙

選択・家庭科「New Flour baby Project」 受講者および保護者の方へ	
受講者へ	<p>5月14日（金）から、Flour baby Projectを本格的に実施します。</p> <p>そこで、可能な人は次の2点について準備してください。</p> <p>①自分自身の生まれたときの体重を調べる。 ②バスタオルやエプロンなどを用意する。</p> <p>また、保護者の方に次のことをお知らせください。 よろしく願います。</p>
保護者の方へ	<p>第3学年前期の選択授業がスタートしました。金曜3・4限の講座Ⅱは、2時間連続の100分授業となります。</p> <p>今回、選択・家庭科の講座Ⅱでは、「Flour baby Project」に挑戦します。</p> <p>このプロジェクトは、アメリカで1980年代に開発されたもので、十代の生徒に子どもとの関わり、また、親になるということ等を考えさせる点において大変効果をあげてきたものです。</p> <p>これから数週間、あなたのお子様はFlour babyの親として仕事をします。この実際の経験が、誰かを世話する責任だけでなく、Babyの世話にはお金と負担がかかるということを考えさせてくれるものと期待しています。</p> <p>土曜日と日曜日の2日間、Flour babyを家庭に連れて帰りますが、どうかご了承ください。また、時々ベビーシッターとして、あなたのお子様に手を貸してやってください。</p> <p>どうぞ、よろしく願います。</p> <p style="text-align: right;">岡山大学教育学部附属中学校 技術・家庭（家庭）科担任 原田 省吾</p>

1回目の授業は、5月7日（金）3・4時間目（10:50～12:40）の「選択の時間」に行った。3時間目には、「選択の時間-New Flour Baby Project」全体の説明を行った。4時間目に、生徒にBJを配布し、FBPの概要と注意事項を説明した上で、養育

ルールを提示し、これを守る誓約として、生徒にサインをさせた。

2回目の授業は、5月14日（金）3・4時間目（10:50～12:40）の「選択の時間」に行った。生徒は、班で協力して自分の誕生時の体重と同じ重さのFBを作成し、FBとの親子写真を撮り、FBを抱いたままBJを記入した。授業終了時に、FBを教師の保育園に預け、BJを提出したが、放課後、土・日曜日に自宅でFBを世話するため、家庭科室でFBとBJを受け取り、自宅に連れて帰った。

5月15日（土）・16日（日）は、生徒は各自の自宅でルールに従ってFBを世話し、1日の終了時にはBJをつけ、世話をしたという証明のために保護者から署名をもらった。

5月17日（月）の朝、生徒はFBと共に登校し、教師の保育園にFBを預け、BJを提出した。

3回目の授業は、5月21日（金）3・4時間目（10:50～12:40）の「選択の時間」に行った。生徒は、授業の最初にFBとBJを受け取り、学校内の限られた環境の中で、日常生活で起こり得る状況を設定したコースを、FBと共に回った。

コースとその活動は、①校舎1階の被服室を出てスリッパを上履きに履き替える、②被服室を出発し廊下を歩く、③トイレに行き、個室に入る、④下駄箱に行き靴を履き替える、⑤傘を差して校舎の外を通り購買へ向かう、⑥購買で飲み物を買う、⑦傘を差し校舎の外を通り、下駄箱に向かう、⑧靴を履き替えて、階段を登り2階へ向かう、⑨2階の廊下を通り、階段を下りて、被服室へ戻る、⑩上履きをスリッパに履き替え、自分の席でBJを記入する、⑪FBと共におやつ（飲み物とお菓子）の準備をし、食べる、である。各班が5分間隔で出発し、短時間ではあるがFBと共に活動した。

授業終了時には、FBを教師の保育園に預け、BJを提出した。

4回目の授業は、5月28日（金）3・4時間目（10:50～12:40）の「選択の時間」に行った。生徒は、授業の最初にFBとBJを受け取り、BJの記述内容から「FBの世話で感じたこと・考えたこと」「10代で親になること」「親になること」をテーマにディスカッションを行った。

生徒は、ディスカッション終了後、BJを書いて提出した。最後に、FBとの親子写真を撮影し、FBを返却して、プロジェクトを終了した。

IV 中学校「選択家庭」におけるFBPの実践結果

生徒のBJの記述結果と最終日のディスカッションの授業記録から、FBPの実践結果を検討してみたい。

1. BJの記述結果からみる生徒が獲得した認識

生徒16名のBJの記述を分析し、頻度の多い内容を抽出することで、FBPにより生徒が獲得したと考えられたのは、次の5点の認識である。

第一は、88%の生徒が記述していた「世話に伴う様々な大変さ」である。前回の「総合」では、95%の生徒が「大変さ」を感じていたが、それは「FBの重さ」に起因したものであった。今回は、「とても重くて大変だった」という感想に加えて、「ベビーカーを連れて外を歩くのは、日光から守ったり（しなくてはならないので）大変だ」、「虐待とかしてはいけないし、落としたりしてもいけないから、いろいろ気をつけて大変だった」、「一人で歩いているよりも何倍も大変だなと思った」と、多様な大変さを感じていた。

第二は、「FBに対する愛着」である。63%の生徒がFBを「かわいくて仕方ない」と感じ、FBと「別れたくない」と思っていた。

それと同じく、63%の生徒が、家族は「自分が面倒をみられない時にみてもらう」ために重要であり、「いつでも、どんな時でも、自分一人では育てられない」という第三の「家族の協力の必要性」を記述していた。

第四は、「養育態度の反省」である。「本当の赤ちゃんは、もっと大変だろーなー」、「本当の赤ちゃんだったらもっとしっかり抱かなきゃいけない」と、44%の生徒が自分のFBの世話に関する反省を述べていた。

第五は、88%の生徒が記述していた「現在の自分に関する認識」である。生徒は、「今はまだそのつもりがない」、「いろいろ諦めたくないことがたくさんある」、「お金がない」、「責任感がない」、「育児に関する知識が少なすぎる」、「自分のことも自分でできない」、「自分で精一杯」だから「今の自分は親になることができない」と考えていた。

2. ディスカッションの展開と生徒が獲得した認識

生徒のBJの記述に基づいたディスカッションを、プロジェクト最終日の3・4時間目の「選択の時間」に行った。以下、ディスカッションの3つのテーマの展開を追いながら、生徒が獲得した認識について検討してみたい。

最初に、教師が、同校の家庭科教諭で育児休暇中のK先生が赤ちゃんと共に今日の授業に特別ゲストとして参加してもらうことを生徒に告げ、授業に入った。

(1) テーマ①「FBを世話して感じたこと・考えたこと」

ディスカッションに際して、教師は、各班に用紙10枚とマジック1本を配布した。

次に、各班で10分程度、生徒にこれまでのFBPを振り返らせ、「FBを世話して感じたこと・考えたこと」について話し合わせ、班で出た一つ一つの意見をそれぞれ1枚ずつの紙に記入させ、それを黒板に貼らせた。

教師は、黒板に貼られた各班からの意見を生徒の代表者に分類させ、分類された項目「FBが重かった」、「FBをずっと気にかけていなければならないので自分のことができない」、「FBを抱いていると不自由」、「恥ずかしい」、「幸せ・癒される」、「楽しかった」、「本当の赤ちゃんがほしいと思った」毎に読み上げ、具体的な意見を確認していった。

(2) テーマ②「10代で親になること」

その後、生徒にBJの5日目の質問「1. ①もし、あなたが本当に10代で親になったとすると、どのようなことをあきらめたり、変えたりしなければならないと思いますか？ ②あなたはそれができますか？」と「6. ①あなたは親になる準備ができていますか？ ②それはなぜですか？」に対し各自回答するように指示した。

生徒が記入したのを確認して、全体で意見交換を行った。生徒は、「10代で親になったとすると、あきらめたり変えなければならないこと」として、「勉強」、「進学」、「就職」、「睡眠」、「遊び」を挙げ、「それができるか？」に関しては、「10代はまだ親のすねがかじれるからできる」という意見も出たが「できない」という考えが大半を占めた。「10代で親になれるか？」に対しては、「育児に関して知らないことが多い」、「お金がない」、「自分のことも自分でできない」、「責任がもてない」から「できない」、「親になる準備はできているか？」に関しても「できない」という結論を出した。

(3) テーマ③「親になるということ」

この結論に対し、休憩をはさみ、教師は、「将来は親になってみたいか？」と問い、論文末の資料1「親になった大学教員の夫婦のインタビュービデオ」を生徒に見せた。ビデオの内容は、「①名前の由来」、「②赤ちゃんの生まれた日」、「③生まれた時の体重」、「④生まれる時の様子」、「⑤生まれた時の気持ち」、「⑥赤ちゃんと一緒にいて大変なこと」、「⑦赤ちゃんと一緒にいて嬉しいこと、楽しいこと」、「⑧赤ちゃんの世話で大変なこと」、「⑨将来どんな子どもになって欲しいか」である。

その後、ゲストのK先生に、教師が「赤ちゃんの生まれた時の体重」と「生まれた時の様子」を質問し、これまでの生徒のディスカッションを踏まえて

K先生の子育てに関する経験談を話してもらった。その詳細は、論文末の資料2に示す通りであるが、「①生まれた時の様子」、「②赤ちゃんが生まれたことで変わったこと」、「③赤ちゃんを生んだ時の気持ち」、「④赤ちゃんがお腹にいる時」、「⑤性別の希望」、「⑥双子のお母さん」、「⑦周囲の人の協力の必要性」、「⑧名前付け方」、「⑨赤ちゃんの男女の違い」、

「⑩赤ちゃんのいる生活」に関する内容が語られていた。

最後に、生徒にBJの「今回の活動を通して感じたこと」を記入するように指示した。生徒の感想は、表4に示す通りである。

記入が済んだ生徒からBJを提出し、FBとの写真撮影をした後にFBを返却して、FBPを終了した。

表4 FBP終了後の生徒の感想

班	生徒	感想
A	M. K	ベビーはかわいいけど、自分で育てると考えると不安。話を聞いていて、本当にそう思えるのか不安な気持ちと、早く本物の子どもがほしいという気持ちがいっぱいになった。
	Y. K	大変。小麦粉の赤ちゃんにこんだけ苦労するのなら本当の赤ちゃんを育てるのは難しいかも。でも「生きている」赤ちゃんは違うのかな。やっぱり今はまだいいけど、時がたったらほしいなあと思ったり。
	S. T	楽しかった。家でもやりたいです。
	A. T	今K先生の話を知っていると本物の赤ちゃんはフラワーベビーなんかよりもっと大変なんだと思いました。本物は泣くしわめくし落としたりしては絶対いけないし・・・と。でもK先生の話の通り表情豊かでどんどん育っていくのは本当に楽しそうだしかわいいと思います。だから私も将来子どもを育ててみたいデス。最初はなんか疲れそう・・・という気持ちだったけど、今は大変+楽しいという気持ちでいっぱいです。赤ちゃん最高。
B	M. O	子供はかわいい 一緒にいると幸せになれると思う。ずっと一緒にいたい。いつもたくさんの愛を注ぎ込んであげたいと思った。
	M. T	フラワーベビーの世話を通して、本物の赤ちゃんでなくてもこんなに大変なのだ、ということが分かった。将来、子供ができたときには、今回の学習を生かして、育てることができたらいいなあと思う。今回の学習で、赤ちゃんの世話が大変だということ、大切だということ、色々学ぶことができた。赤ちゃんを育てるとき、愛情を持って育てたいと改めて感じた。
	M. H	子どもの気持ちを考えることで、自分の考える力とか包容力がある人になれるかもしれないなあ～と思った。
	A. H	自分が気をつけてしっかりしないとダメ。マズイ。自分に責任を持ってないと子どもを幸せにできない。
	M. Y	重くてつかれました。大変さが少し分かった気がするけど、本当はもっと大変だろうなあ。
C	T. K	親になるのは大変だなあと思った。子供がいると大変なことが多いのが分かった。でも、ビデオや先生の子供を見てかわいいなあと思った。
	A. T	感じたことは、思った以上に大変だということ！！考えたことは・・・本当の子供だったら、もっとかわいいんだろうなあということ！
	Y. M	まだまだ自分は親にはなれないなあ～と感じた。やっぱり、自分のことは自分でできて、ベビーもちゃんと育てられるようにならないと、親にはなれないと思った。
D	M. O	先生の話を知ってすごく赤ちゃんがほしいと思った。将来、苦しいことも辛いことも全部ひっくるめて赤ちゃんを大切に愛情を持って育てていきたいと思った。
	H. S	思っていたより赤ちゃんは重かったし、片手しか使えなくて不自由だしで大変でした。でも、大切な子供だったら、そのようなことに耐えることができるのだと思いました。実際、話を聞いても、子供が産まれたことによって、今までの苦労がチャラになったといっていました。本当にそうだといいなあと思いました。
	M. T	改めて、赤ちゃんを育てることは大変だと思いました。でも、親になって自分の子がほしいと思いました。赤ちゃんを生むと、自分のことができないし、何をするのも大変だと思うけど、大切な子供だったら平気なんだろうなあと思いました。
	A. M	親になることはどんなに大変か分かった。自分のことも出来ないのに、子供の世話なんてムリだ。けれど、本当に子供を育てるといことは、すばらしいと思う。くるしい、大変な分以上に、楽しい幸せになれるときがあると思う。自分も、将来、子供がほしいと思った！！

V 中学校「選択家庭」におけるFBPの意義と今後の課題

1. 「選択家庭」におけるFBPの意味

以上から、「選択家庭」を履修した女子生徒40名は、「FBに対する愛着」を持って、土・日曜日の自

宅でのFBの世話と学校での4回(計8時間)のFBPに取り組んだ。その過程で、生徒は、「世話に対する様々な大変さ」から、「家族の協力の必要性」を感じると共に「養育態度の反省」を行い、現在の自分には、「子育てに関する責任」や「子どもを育

てることに関する知識]、「経済力」が欠如し、「自立できていない」ために「今の自分は親になることができない」と認知していた。

しかし、その後にクラス全体で行ったディスカッション終了後の生徒の感想では、「子育ては大変」「自分で育てると考えると不安」だと感じながらも、「将来は自分の子どもがほしい」、「いつも自分の子どもには愛情を持って接したい」、「子育ては大変だが、子どもの気持ちを考えることで自分も成長できるのではないか」、「自分に責任が持てないと子どもを幸せにできない」という、「将来の自己認識」に結びつく感想や意見を述べていた。

以上から、FBは生徒が興味・関心をもつことができる教材であり、FBPを保育学習の導入として位置づけ、実践することで、生徒は、乳幼児との関わりを経験する中で「子どもを育てるということ」「親になるということ」を自分の問題として捉え、現在および将来の自己に関する理解を図ることができ、可能性が把握された。

2. 今後の課題—FBPの実践条件—

しかし、今回の「選択家庭」でのFBPの実践結果を、本継続研究の第一段階として行った中学校「総合」と高等学校「特編」でのそれと比較すると、次のような課題が把握された。

前回の中学校の「総合」では、学校で非連続の2回の授業時間内でのFBPの実施であった。それに加え、今回の「選択家庭」では、土・日曜日に生徒が自宅にFBを連れて帰って世話をし、FBPの最終日にはディスカッションを行った。その結果、生徒は「総合」では獲得されなかった「多様なFBの世話の大変さ」、「家族の協力の必要性」、「自分の養育態度の反省」を体認していた。さらに、「現在と将来の自己認識」に関しても、より多角的な理由から「現在の自分は子どもを持つことはできない」、「将来は自分の子どもがほしい」という結論を見出していた。

これから、学校での授業時間内のみではなく、生徒が土・日曜日に自宅でFBを世話することとディスカッションを実施することは、生徒の認識を深める上で意味があることが示唆された。

しかし、高等学校「特編」と今回の「選択家庭」

で獲得された生徒の認識を比較すると、共通してみられた「世話に伴う様々な大変さ」と「協力の必要性」に関しては、高校生の方が第三者との関わりを通じたより多様な要因からそれらを捉えていた。さらに、中学生には見られない「子育てに対する責任」や「子どもが育つ環境としての家族」について高校生が認識していたことから、土・日曜日のみではなく、ある程度連続した日数で生徒がFBを家庭と学校で世話することがFBPの実施には必要であると考えられる。

さらに、「特編」と「選択家庭」で、生徒が共通に「いろいろな人の話を聞いたり、先生の話の聞いて気持ちや考えが変わった」と述べていることから、ディスカッションにおいて、子育ての経験を持った人の話を聞くことは、生徒が自分の見方や考え方を深めていく上で意味があると言えるだろう。

以上の結果から、本継続研究の目的を達成するためには、授業開発の第三段階として、全ての生徒が学ぶことができる中学校の家庭科保育学習にFBPを位置づけ、実施可能な最適条件を探り、実験授業を行っていくことが今後の課題となる。

引用文献

- 1) 佐藤園. アメリカ合衆国における教育改革と家庭科教育（第3報）—カンザス州のミドル・スクールにおける家庭科の実践—。岡山大学教育学部研究集録第118号, 2001, p.69-84
- 2) 佐藤園. ケア概念の獲得をめざす家庭科授業実践の試み（第1報）—大学生に対するFlour Baby Projectの実施結果—。岡山大学教育学部研究集録第119号, 2002, p.49-62
- 3) 佐藤園, 三浦聖子, 原田省吾. 自分と子どものかかわりから自己理解を図る保育授業の開発（第1報）—中学生に対するFlour Baby Projectの実践と検討—。岡山大学教育学部研究集録第128号, 2005, p.147-155
- 4) 佐藤園, 三浦聖子, 佐藤ゆかり. 自分と子どものかかわりから自己理解を図る保育授業の開発（第2報）—高校生に対するFlour Baby Projectの実践と検討—。岡山大学教育学部研究集録第128号, 2005, p.157-168

資料1 親になった大学教員の夫婦のインタビュービデオ

<p>(I：インタビュアー，M：母親，F：父親) I：赤ちゃんのお名前と性別を教えてください。 M：名前は、としひさ君です。ニックネームは、太郎君です。 I：何でその名前を付けたんですか？ F：①我が家の家系図をずっとさかのぼってですね、18代くらい前の戦国時代の人で、名前が「すけとし」という人と「としひさ」という人がいたんで、そのあたりから名前をもらって、「とし」という字をもらって、「ひさ」は僕の「ひさ」をとって、「としひさ」にしました。 I：赤ちゃんはいつ生まれたんですか？ M：②今年の4月18日です。 I：赤ちゃんが生まれたときの体重は、どれくらいでしたか？ M：③3054gです。 F：3054g？ M：3054g。あ、3354g。ごめん、ごめん。 I：生まれるときは、どうでしたか？ M：④大変。大変でした。痛かった。陣痛？すごい長かった。25時間くらいかかりました。 F：最初の約束で、陣痛が始まって、だんだん痛いのと痛くないのとの間隔が短くなったら病院へ来てくださいと言ったので、フライングをやりましてね。もうそろそろだなと思って、夜、病院に行ったら、「まだですね」と言われて、1回帰されてね。2回目もフライングをやりましてね。最初のフライングから4日後くらいですかね。本当の陣痛が来たのは、土曜日の、夜8時頃。その時の気持ちとしては、たぶん夜中くらいには産まれるかなあ、と。22時間くらい。痛い、痛い。かわいそうでしたねえ。陣痛で、痛いで、背中を、こう、なでると言うんですか。ちょっと楽になるみたいですけどね。夜中中ずっとやってると、こっちも眠くなってきました。3分おきとか5分おきとかで。寝られないですね。すごい苦しかったですよね。一生忘れない経験ですね。 I：生まれたときはどんな気持ちでしたか？ M：⑤とてもうれしい。 I：今、赤ちゃんと一緒にいて、大変なことという、どんなことが大変ですか？ M：⑥寝れないことです。寝る時間があんまりない。起きたら、あまり寝たくないとか、飲みたいばかり。ちょっと飲み過ぎですね。 F：おっぱい飲んで、そのあと安心して寝てくれればいいんだけど、飲み過ぎると吐くんですよ。吐くときに、苦しいみたいで、その間泣くんですよ。で、ブツと吐いて、この辺汚れて、全部着替えさして。また吐いたりしてね。静かに寝るまで。また、寝てくれるかどうか分からないし。難しいですね。朝まで、部屋の電気が消えない。ずっと徹夜ですね。 I：じゃあ、嬉しいことや楽しいことって言うと、どんなことですか？ F：⑦嬉しいこと・・・時々笑うんですよ。何か喜んでるのかなあと思って。意味がないという噂もあるんだけど。 M：遊んで、ひとりで遊んで、小さい声で「あああああ」って。気持ちいい。 F：時々可愛い声出すんですよ。「あ」ってな声を出すんです。たいていはね「う」。ゲップと似たような感じで「うお」。今日珍しく静かにしてますけどね。大変なこと、あったかな。 M：⑧便秘。 F：便秘が。3日に1回くらいはお通じがあるはずなんですけど、なかなか出なくて。そういうときはどうするの？ M：・・・？ F：綿棒？ M：綿棒。耳の穴するので、お尻の穴、クチュクチュクチュ。でも、硬いじゃない。普通です。昨日しなかった。自然に出ました。あと、洗濯ですね。毎日、毎日。吐くと、ここが汚れて、気持ち悪いので、着替えます。あと、おしめ。おしめ替えるとき、よくなく。機嫌良くない。 F：お尻の下にすべり込ませるようにして、そのときに、絶対足閉じるんですよ。わざと邪魔してるのかな、と思って。こうあけて、グツと。早くしないと、ピューッと噴水がくるしね。 M：3回くらいあった。 F：赤ちゃんだけじゃなく、自分の服もぬれてね。大変なことになる。 M：自分の顔も。</p>	<p>ビデオ内容① 「名前の由来」</p> <p>ビデオ内容② 「赤ちゃんの生まれた日」</p> <p>ビデオ内容③ 「生まれたときの体重」</p> <p>ビデオ内容④ 「生まれるときの様子」</p> <p>ビデオ内容⑤ 「生まれたときの気持ち」</p> <p>ビデオ内容⑥ 「赤ちゃんと一緒にいて大変なこと」</p> <p>ビデオ内容⑦ 「赤ちゃんと一緒にいて嬉しいこと、楽しいこと」</p> <p>ビデオ内容⑧ 「赤ちゃんの世話で大変なこと」</p>
---	---

<p>F: しょっちゅう替えてますね、おしめは。 F: あとどんなことが大変かな。お父さんが、気がつくとは日もシャワーを浴びてなかったりとか。言わない方がいいですかね。大変と言えば、大変ですね。頭が軟らかいでしょ。後ろでてるから。ずっと右を向いてたりすると、形が悪くなるんですね。ゆがんじゃって。それを気をつけて、右向かせたり、次起きたらこっち向かしたりとか。それは何か、自分で思い通りに動いてくれて。一安心ですね。今日は行儀がいいね。カメラがあるからかな。</p>	
<p>M: 珍しい。 I: 利久君に、どんなお子さんになってほしいと思ってますか？</p>	
<p>F: ⑨考える余裕がなかったですね。生まれてこの方、この1ヵ月くらいは、振り回されっぱなしで。何か、希望だとか将来とかね、なんていうか、こう長いことでみる暇がなくて。どっちかっていうと、お金使うことがすごく増えちゃって。どうしようかなと。ちょっと下世話ですけどね。でも、まあ、心配・・・想像がつかないですけどね。たぶんにぎやかでうるさそうなお子になりそうだから、それは、ちょうどいいかな、とか。まあ、明るい子ならいいかな、と。あまり期待していません。あまり過剰な期待はしていません。</p>	<p>ビデオ内容⑨ 「将来どんな子どもになって欲しいか」</p>

資料2 K先生の子育てに関する経験談

<p>(T:教師, G:K先生, P:生徒) T: はい、ちょっと音が小さくて申し訳なかったのですが、今の話の中で聞いてもらったと思います。最後、子どもに対してどんなことを望んでいるか、希望しているかの話があったと思うんですが、そんなに多くは期待していないけれども、明るく育てほしいな、ということを言われてました。では、せっかくですから、K先生にも、同じようなことをインタビューしてみたいと思うんですが、先生、その子の生まれたときの体重は？</p>	
<p>G: この子はね、2650でした。 T: 生まれたときの様子は？</p>	
<p>G: ①生まれたときの様子はね、先生が中学生の頃、何が一番気になるかって、みんなもそうだと思うんだけど、すごい苦しいんじゃないかなって。それぐらいえらいことはなかったっていう人がたくさんいて、それがすごく引かかっていて。実際自分が産むようになってからも、不安はありました。でも、産まれたら不思議な物で、そういうの全部帳消しにできるくらいうれしいというか、うれしいというか、こう、じわーっと満たされるような感じで、うんでよかったなというか、しんどかったことは帳消しにできるような感じでした。その前に、しんどいしんどいって思って産む人はしんどくなるよって聞いたんで、いいお産をしようと思って、うむときにいい気持ちでいたらいいお産ができる、もうしたくないって思ったらしんどくなるよって聞いて。いい気持ちでお産できるように、先生もそんなには強くないんですけど、自分に言い聞かせて少しは楽ができるようにしました。お腹が痛くなってからね、1時間半くらいで産まれてきましたけど、皆さんと勉強してたときが、すごくしんどくて、家ではずっと寝てました。家では、死んだようになってました。普段、授業しているときは、みんなの顔を見ていたら元気になるし、みんなの声を聞いたら動けるんですよ。家に帰ったらえらくって、動けなくて。えらくない人は全然えらくないのに、先生は、この子の場合はずっとえらくって。ほんとにみんなには迷惑をかけたんだけど呼吸するのをえらくって、しんどかったんだけど、でも産まれたら全部帳消しにできるようなうれしさでした。</p>	<p>経験談① 「生まれたときの様子」</p>
<p>G: ②みんなも書いてくれたことと似たようなことを思いながら、暮らしています。今この子9キロなんだけど、さっき抱いてくれた人が、軽い気がするっていったんだけど、こうやってしがみついてくれるから、小麦粉よりは、軽いと思います。この子を抱いて、この子を世話だけをすればいいんだら、快適だと思うけど、本当はこの子を抱いて家事をして、仕事は今お休みしてはいますが、もう一人子どもがいて、買い物もしなきゃいけない。それから、私が要領がよくないんだと思いますが、一番大変なのは買い物なんです。あきらめたり変えたりしないといけないもので、もっと小さいことを言えば、ゆっくりお風呂に入りたいゆっくりごはんを食べたい、かわりに買い物行ってほしい。ちょっと抱いてくれてたら、その間にできるのに。そんな感じで、ものごとく話を焼かせることがこの人の仕事だから、何をするにも一緒だし、台所のもついでくるし、離れないからしょうがないからかかえて、揚げ物を、本当はよくないんだけど、揚げ物を片手でやって、疲れたら向きを変えて片手でして、一緒</p>	<p>経験談② 「赤ちゃんが生まれたことで変わったこと」</p>

に食べるのもひっくり返すのでどんぶりにして、おかずや野菜をのっけて食べさせたり、そういう感じで、けっこう自分のペースで生活できない。自分のペースで生活するのをあきらめて、この子のペースで生活しています。

G：で、でも反応は返ってくるし、見てたら楽しいし、可愛いし、飽きないです。外を歩いていると、いろんな人が声をかけてくれます。「赤ちゃん可愛いね」とか「何ヶ月？」とかね、言われてね。いろんな人とのコミュニケーションが実現してね、そういう点では普段と違う生活をさせてもらってるのかな、という気がします。

G：③今はね、だいたい食事を同じようにはとってるんだけど、お乳がないとダメなので、お乳を飲んで、ごはんを食べて、そういう生活をしています。何かあったら、質問してくださいね。それからもう一つ。みんなに伝えたいこと。あのね、先生、みんなくらいの時に、産まれたらうれしかったっていう人と、産んだ責任でずっしり重いという人がいてそんなこと思うのかな？とっていました。一人目を産んだときは、思いませんでした。うれしいな。この子を産んだときは、産んでしまったこの子に対して責任を感じて、この事を言ってたんだなあ。で、出産って、潮の満ち引きと関係あるから、重なるときはいっぱい重なるみたいで、先生が産んだときは4人続けて、ラッシュで。総合病院で産んだんですけど、産まれて、病室が空いてないので待ってくださいって言われて、分娩室で待ってて、そのまま過ごして、お部屋に行ったんですけど。まだ人間らしくなくてしゃべれないけど、けっこうまわりの状況を読みとって、嫌なものは嫌、やりたいことはやりたい。子どもにも意志があるみたいです。

T：なんか聞きたいことがあればなんでも。

G：④もう一つ。お腹の中にいるときのこと。この子はね、逆子になりました。先生、みんなともう1ヵ月一緒に勉強できる予定だったんだけどもうえらくて。みんなと同じように入学式でて、始業式も一緒にでたんですけど、病院に行ったら尿に蛋白がでてて、そのまま、着の身着のまま入院したんですが、先生に逆子になってますって言われてすごいショックで。あんまりそういうの気にならない人もいるんだけど、先生はすごいショックで。先生何とか戻りませんかかっていったら、お尻を高くして寝たらなおるかもしれないって言われて、いつもお尻を高くしてて。お腹がかなり大きくなってから、この中でひっくり返るのは難しかったと思うんだけど、戻ってくれたんでよかったです。お腹切るとよくないし、縫うとふかないといけないし、ちょっと痛い思いや苦しい思いが増えますよね。人一人産むのは大変だなあと感じますが、幸せな気分で赤ちゃんを育てています。

T：先生では質問に答えられない部分をお話ししてもらいましたので、いい機会ですから、何か聞きたいことがある人は聞いてください。僕では答えられませんから。みんななジャーナルにもいろいろ書いてくれてるけど、そういうことでもいいよ。

P：はい。そのお子さんを産むときに、性別とか、望みはありましたか？

G：⑤性別はね、あのね、周りの人に必ず聞かれます。男の子？女の子？って。エコーでね、お腹の中を見たら、男の子だったらおちんちんがついていて、女の子だったらついていない。見間違いもある。病院ははっきり言わなくて。でも男の子っぽくはないなどは言われてたんだけど先生は、まわりのおじいちゃんやおばあちゃん、旦那さんにはその通り男の子じゃないかもしれない、女の子かなと言ってたんだけど、まわりには分からないって言うてました。先生はどう思っていたかって言うと周りの人のいろんな思いがあるだろうけど、産む私が男がいいとか女がいいとか、言うてはいけないと思って。どっちでもいいから元気に産まれてくれればそれでいいと思ってました。

P：ありがとうございました。

G：それでもね、いろいろ思いはあるよね。先生の場合は1人目が男の子だったので、2人目は女の子がいいような気もするし、上が男の子だから下も男の子の方がいいような気もするし、どっちでもいいんじゃないかなと思って。今でもそれぞれ思いがあるだろうけど、いんじゃないかなと思います。

G：⑥あと、先生病院に入院したら、いっぱいお母さんの友達ができたんだけど、病院に入院してるお母さんで多かったのは、双子の赤ちゃんだったの。びっくりしたんだけど、双子の赤ちゃんって、体重を二人合わせたらどのくらいになると思いますか？そのFBが二つお腹の中に入ってるとしたら、どんなことになると思いますか？もう、立ったらお腹がすごく大きくて、つま先に手が届かないくらい。元気に双子を産むお母さんもいるけど、入院してるお母さん達は、動くとき小さいのいでて来ちゃうので、お腹はばんばんになって、おかあさんはしんどいんだけど、点滴をつないで、一日中横になって少しでもお腹の中で大きくしてやった方がいいから。夜中になるとほんとにしんどそうで、苦しそうなんだけど、ちょっとでも赤ちゃんをお腹の中においておこうと。あんまり大きくなると産むのが大変なんだけど、大丈夫な状態まで何とかお腹の中で大きくしてやろうとしてました。ゆっくりトイレに行って、帰ってき

経験談③

「生んだときの気持ち」

経験談④

「赤ちゃんがお腹にいるとき」

経験談⑤

「性別の希望」

経験談⑥

「双子のお母さん」

て、ゆっくり歩いてお腹を揺らさないようにしてて。男の人はたまに来て、優しい声をかけているんだけど、やっぱり女の人はずいぶんあと思っ、人を一人産むって大変だなあ。でも、自分を今までにない経験に導いてくれるというか、そう思います。皆さんもいろんな考えがあって人生を歩んでいくと思いますが、幸せに歩んでいけるといいなと思います。

G：⑦あとね、もう一つ言っ、先生、みんなよく知ってるから、思っ、正直に言っ、自分一人で育てようなんて絶対に思わない方がいい。先生は、一人目の時は誰にも迷惑をかけずに、自分で育てていいお母さんになろうと、がんばろうとしましたね。ちょっとなんかあっても、一人で頑張っ、いいお母さんにならなきゃ、と思っ、時々パタ、パタっ、倒れて却っ、まわりに迷惑をかけて。家族の人とか、おじいちゃんやおばあちゃんとか、近所の人でもいい。手伝っ、もらえん人には手伝っ、もらおう。その代わり自分もしてあげられることはしてあげたいんだくらいで、あまり自分にプレッシャーをかけないでできたら、そのほうがいいですね。一番頼りになるのは自分のパートナーですね。将来結婚した相手が、しっかりバックアップしてくれて、バックアップしてくれる中で子どもが育っ、いけたら、いいと思うんですけどなかなか大変です。その大変な中を、穏やかに余裕を持って生き抜いて子どもを育てて、自分も楽しんでいこうと思っ、自分が豊かになれてないと絶対できないよね。余裕を生み出すことができないよね。既にみんなも子育てをスタートしてるから、そんな気がします。いっぱいいろんなものを吸収して、今日も、みんな見て、立派になってますよ成長してるところは成長して、豊かな人になって、幸せを分かち合っ、ほしいなと思っ、頑張っ、ほしいなと思っ、

経験談⑦

「周囲の人の協力の必要性」

T：何か意見がありますか？

G：何でもいいですよ、聞いてくれたら。

T：名前とか、いいか？

G：⑧名前をどうやって付けたか言っ、先生、名前がその人の運勢を左右するかどうか分からないけど、まあ、良いといわれる名前を付けるに越したことはないと思っ、あの、よく画数とかあるじゃないですか。で、まあまあ良いかな、という名前を書き上げたんだけど、なかなか決まらなくて、で、それでも15個くらい書き上げて、名前を見てもらう先生の所に言っ、見てもらいました。で、どれもあんまりよくないな、といわれて。お父さんの生まれた年、お母さんの生まれた年、どれもよくないなっ、といわれて、でも敢えて言えばこの1枚っ、言われて、あんまりよくないこの1枚の名前を付ける気にならなくて、じゃあ、名前を付けてくださいって言っ、ときに2つの名前を出してもらっ、そのうちの一つなんです。それで、幸せになれるって決まるわけじゃないんだけどよくないって言われた15枚はもういいですからって言っ、頂いた名前がえ。りは利益の利、恵むという字なんですけど決めました。名前も1週間以内に書いて出さないといけないんだけど、けっこうギリギリまで悩んで出しました。みんなの名前もお家の人が考えられて、思いをこめてつけられた名前なんだろうなあと思っ、

経験談⑧

「名前の付け方」

G：⑨あとね、知ってる人もいるかもしれませんが、男の子と女の子とありますが、男の子と女の子とでは、抱いた感触が全然違います。男の子はね、固い感じ、びっしりお肉が詰まってる感じ、女の子は心地よい柔らかさで手が沈む感じ。抱いた感触が全然違います。保育園の先生とか幼稚園の先生に聞いたら、抱いた感じが違うって。泣き声もね、違います聞いてたら、男の子の赤ちゃんだな、女の子の赤ちゃんだな、っていうのがなんとなく分かります。男の子の方が少し声が低くて。この子は変わった泣き方をして、泣くときは「イヤイヤイヤ」と泣いてました。なんか、この赤ちゃん、泣き方変わってない？って、オギャアオギャアオギャアと泣かないで、イヤイヤイヤって泣くもんですから変わった泣き方すると思っ、たら、オギャアオギャアになりました。最初は、イヤイヤで、何が嫌なのか分かりませんが。

経験談⑨

「赤ちゃんの男女の違い」

G：⑩一日で、朝起きて夜寝るなんて生活はしないですから、3時間おきにお乳とかミルクをやるように言われてたんで、睡眠不足になります。今も夜中に2回か3回か、多いときは5、6回起きてね。朝までねてくれるといっ、けど、やっぱりね、起きます。重いのを抱くのはなれましたけど、これに大根買っ、キャベツ買っ、たらもう大変で、これだけならまだいいんだけど、車にのっ、て車から降ろすのが、玄関から持っ、ていくのが大変で、それでも機嫌良く寝てたりするといっ、けど、わめき出すと始末に負えなくて、あやしても泣きやまないし、そのうちビニール袋が破れて中のものが転げたりすると収集とかなくなっ、たりしますよね。みんな重い、重いって書いてくれたけど、何で抱けるかって言っ、と大きくなるのは喜びでもあるので、重いけど、そのうち歩けるようになるだろうし、こうやって抱いてやれるのも今のうちだし、抱くことで自分もすごく癒されるし。暑いときは大変ですけどね。お互い汗びしょびしょになるし。

経験談⑩

「赤ちゃんのいる生活」